

平成 29 年度第 2 回 豊田市社会福祉審議会 地域福祉専門分科会
議事録

日時：平成 30 年 3 月 23 日（金）13：30～

場所：東 51 会議室（東庁舎 5 階）

出席者：

分科会委員（敬称略） 板倉聖子、梅田幸重、柿島喜重、加藤雪子、神谷誠司、小松理佐子（分科会長）、
花村善照、松本英朗、山田美津子、山村史子

：事務局 地域包括ケア企画課 水野課長、堀田副課長、新實副主幹、鷹見担当長、荒川主査、
福祉総合相談課 江崎主査、安藤主査

（社会福祉協議会）小澤、川合次長、中田次長、大地係長

欠席者：安藤公夫、加賀田透、加藤真二

○次第

- 1 豊田市役所福祉部部長あいさつ
- 2 分科会長あいさつ
- 3 議事録署名者の指定
- 4 協議事項

第 2 次豊田市地域福祉計画・地域福祉活動計画の策定について

開会

1 豊田市役所 地域包括ケア企画課長あいさつ

【事務局】

続きまして、地域福祉専門分科会の会長の小松先生より一言ご挨拶をお願い致します。

【小松分科会長】

みなさんこんにちは。先ほど水野課長さんから、すぐく前向きなご挨拶をいただきました。

成年後見の窓口が作られたという話が出てきたんですが、実は私は今愛知県の成年後見制度の研究会の委員長をしておりますので、愛知内のいろんな情報がいつも委員会に出てきており、豊田市が窓口を作ってぐんぐん実績を上げていることが愛知県でも話題になっております。そんな意味でも、豊田市が今注目されていると感じております。今日は、新しい国の動き、地域福祉計画の内容が変わってくる動きもご紹介いただくことになっていますが、私が見たところ、国の動きよりも豊田市の機能の方が先に進んでいるんじゃないかな、というように感じております。ですから、国の動向というよりも、これまでで出来たものを着実に積み上げて、次の計画ができるような、そんな皆様と議論ができればいいなと思って参りました。どうぞよろしく願いいたします。

【事務局】

はい、ありがとうございました。それでは議事のほうに移りたいと思います。以後の進行は小松分科会長をお願いいたします。

【小松分科会長】

はい、それでは、私が勤めていただきますのでよろしく申し上げます。ではまず初めに、委員定足数の確認についてお願いいたします。

【事務局】

はい、本日は議員 12 名中 8 名のご出席をいただいており、豊田市社会福祉審議会運営規程第 4 条第 5 項の規定による過半数の定足数を満たし、有効に成立しましたことをご報告いたします。

【小松分科会長】

ありがとうございました。続きまして、豊田市社会福祉審議会運営規定第 12 条第 2 項に基づきまして、議事録署名者 2 名を指名させていただきます。本日は山田美津子委員それから山村史子委員にお願いしたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

はい、では、3 の協議事項の議題に入りたいと思いますので、事務局よりご説明をお願いいたします。

第 2 次豊田市地域福祉計画・地域福祉活動計画の策定について

- 1 第 2 次計画（2020 年～2024 年）の策定趣旨
- 2 第 2 次計画のポイント
 - (1) ガイドラインの反映
 - (2) 第 1 次計画の中間評価と承継

【事務局説明】

【豊田市・豊田市社会福祉協議会が作成した「我が事・丸ごとの地域づくり」に関する映像の上映】

【山村委員】

(とよた市民福祉大学に関する補足説明) 皆様の机の上にとよた市民福祉大学の募集のチラシを置かせていただきました。募集をかけていくということで、区長会の回覧をさせていただいております。修了生はサロン等地域の中で活躍していただいております。引き続き少しずつ活動していければと思っております。

また、この週末にオープンキャンパスという名目で修了生が説明会を行います。市民の方から数多くお問い合わせをいただいております。「何ができるの?どんなことをするの?」や、家庭・介護コースの方も「どんなことを学べるのか?」といったお声を頂いております。オープンキャンパスの中で、こんなことをお伝えすることができますよ、と知っていただける機会を設けようとしております。修了生の方の集いの会が主催してくださって、私たちは学長も含め後方支援をしていくことになっております。以上です。

【小松分科会長】

はい、どうもありがとうございました。今の進捗状況や承継等ご説明いただきましたので、ご意見やご質問はございますか。

【山村委員】

確認というか、1つ教えていただきたいことがあります。高岡の方に相談窓口ができるとお話がありましたが、そこで、基本目標4の評価のところがありました「生活支援コーディネーター」の包括に設置されているものが、窓口に移っていくよ、というお話がありました。全世代を対象にして、全世代の支えあいの地域づくりを行うことはとても賛成で、私は必要であろうと思っております。包括の方は、基本的には高齢者が対象であるので。ただ、窓口に出す、と言われましたが、まだ市内に一か所ですよ。他の地域はどういうふうにしていくのかということもあります。高岡の地域ですと、中学校区が4つで、4包括支援センターは相談窓口に移管されていくのかもしれないけれども、他のセンターの機能はどうしていくのか、と。これから猿投に出ても、特定の中学校区ですよ。です。そういう面で、これからの動きとか、市内の全部が行くのか。行かないところはというふうにしていくのか、というようなことがお分かりになれば教えていただきたいなと思います。

【事務局】

健康と福祉の相談窓口が順次展開をしていきます。その展開に合わせて、まず来年度猿投に窓口ができます。来年度からは猿投地区内の包括支援センターから、生活支援コーディネーター機能は相談窓口の方へ移管していくこととなります。窓口がスタートするまでは、市役所福祉総合相談課や社会福祉協議会で相談をうけつつ、窓口が開設したら現場でちゃんと引き継ぎをしながらやっていくという形です。その後、31年度以降は、窓口の展開に合わせて包括から機能を移行していく予定です。最終的にはすべての包括から移行していく予定です。

【山村委員】

生活支援コーディネーターという名称はそのまま包括に残るわけですか。

【事務局】

移管されれば包括から名称はなくなります。

【山村委員】

名称がなくなると、生活支援コーディネーターという名称の人の配置がなくなるということですか。

【事務局】

包括からはなくなります。

【山村委員】

逆に言うと、生活支援コーディネーターの方が窓口に移動するのでしょうか。

【事務局】

機能だけ移しますので人は異動しません。包括に残ります。そのため、仕事量は増えますので、相談窓口の業務という意味では大きくなる、というのは議論をしていた時も大きな課題でした。

一方で、今でも相談窓口の職員は、支え合いの地域づくりを進める中で、決して対象を高齢者に限定していない形でやっているため、その範疇で業務を吸収できるのかな、と考えております。将来的な話としては、その形式で仕事がどうにも回らなくなってしまった場合は、職員配置数の見直しというのは当然検討しなければならないと考えています。

【山村委員】

私としても少しお願ひしたいなと思っています。現状、市の職員さんも生活困窮者対を対象に活動していただいておりますが、社協の皆さんも動かれているそうですけれども、ソーシャルワーカーとして地域の資源作りだとか、場づくりだとか人材づくりだとか動いていらっしゃるよね。非常に多忙だとお聞きしておりますし、頑張っただいただいている、と思っております。そのため、やはりこういう風に仕事に移管されるということに伴って、高岡もそうですし、次も、というふうになっていくのであれば、そちらの方にも少し人的配置を考えていただきたいなと思います。

【事務局】

ありがとうございます。

【小松分科会長】

大きな論点だと思います。検証しつつ、どんな形が良いか議論していければと思います。他にいかがでしょうか。

はい、特に出ないようでしたら、今後の部分も含めてお気づきの点をご発言していただければと思います。次の説明事項に入っていただきたいと思います。

2 第2次計画のポイント

(3) 基本理念・基本的な視点・具体的な取組みに向けた考え方

(4) 支え合いの地域づくりの推進

【事務局説明】

【小松分科会長】

はい、ありがとうございました。(3)、(4)についてご説明いただきましたが、何かご質問ありますでしょうか。

【花村委員】

(4)については、私たちの立場でも課題です。地域が一つにまとまっていません。高齢者クラブが色々活動する中で、クラブに加入していない人もいます。会社人間の人は、地元とのつながりがありません。やっていこうとしていることは、区とクラブが連携して発信して、クラブに加入してもらい、そして様々な問題について市・区・クラブ等が連携して解決していくのが近道になるのではないかと思います。

先日市長さんとお話した際に、高齢者に対して行政の対応が縦割りになっているので、高齢者対策をどう取り組んでいくのか、を横断的にやっていただけたらどうかと述べました。けれど、今度は「高齢者と若者」と分かれても良くないだろうとも思っています。子ども会や婦人会等とも連携していき、「高齢者クラブがやるべき宿題」を考えていきたいです。例えば、仲間から認知症患者を出さないようにするには、や、仲間に孤独な人がいたらどう救うか、といったことを高齢者クラブでやっていくことが必要だと思ひます。

【小松分科会長】

ありがとうございます。大変良いご意見をいただきました。

【加藤委員】

先ほどのご意見に賛成なんですけれども、私の自治区の高齢者クラブの名前が「山之手老人クラブ」と、未だに老人クラブなんですね。だんだん加入する人もいなくて困っていると聞いています。実際には65歳から加入できるんですが、60代の方はまだ体も動かし、自分の余暇を過ごすという方が多いようです。「老人クラブ」という名前も変えて、お互いにサポートしあえるような、若い人でも入れるような仕組みにして皆を一番身近なところで支えていくことが一番大事だと思うんですね。遠くまで相談に行ったり、遠くの人をお願いするのではなく、近くの人同士で支えあうお助け隊のような仕組みがもっと広まっていったら良いと思います。

【小松分科会長】

ありがとうございます。そういう意味でも、区ごとの助け合いの仕組みづくりというのが次のテーマになってくる感じがします。他にいかがでしょうか。

【柿島委員】

次の3のところに関わってくるのかもしれませんが、最近健康寿命というものがでまして、愛知県女性が全国で1位、男性が全国で3位となっています。男性が72.1歳、女性が74歳と言われています。個別の事業を進めていくことで解決につながるのかもしれませんが、健康寿命と平均寿命の間をどうするか、という問題があります。社会保障費をどうするのか、という視点ですが、そういう切り口はどこで扱うのでしょうか。この分科会で扱うのか、ほかの会議が扱うのか教えていただければと思います。

【事務局】

どこで扱うか、明確には言えませんが、内容によっては本分科会で扱い、別の内容では健康づくりに関する会議で扱うことになると思います。組み立ての中での検討ですが、(3)の基本的な考え方の中で、他計画にどうアプローチしていくか、にもよると思います。各計画を進める中で、福祉の視点を投げかけていく手法や、他計画に当てはまらない部分に関しては本計画に記載していく手法も検討していきます。

【柿島委員】

ぜひ議論していただければと思います。

【山田委員】

支えあいの地域づくりの中で、地域住民主導で具体化する仕組みを、構築できなかったという記述がありますが、お手伝いをさせていただきたい人たちの情報っていうのが、民生委員さんと、「ある程度の65歳以上の1人暮らしの方たちを見守りましょう」みたいなものがあったりして、また、今は区長さんのところにも、そういう方たちの情報っていうのが入っていると思いますが、ご近所づきあいの中で、自分の家族に認知症の人が出たことを、お隣さんにお話するっていうことは結構少ないのではないかと思います。徘徊をした場合に、情報を知っていれば近所で見守ることもできますが、必要な情報を各区民全員に周知できないですし、個人情報保護の観点がある中で、個々の方が他人のことをあまり知り得られないということも、原因の一つではないでしょうか。

【事務局】

確かに個人情報に関しては神経を使うところですよ。その中で、顔の見える関係をどう作っていくのか、は地域にもよるでしょうし、その関係性によっても違います。具体的な提示が出来れば、自分たちの地域の中でそうしましょう、ということもできますし、先ほど

の避難行動要支援者の制度のように、制度でつなぐこともあります。色々な形の中でやっていけたらと思います。ただ、おっしゃっていただいたように、なかなか隣の人のことがわからない、ということもあると思います。

【小松分科会長】

東京の品川区では、介護保険にかからないけど支援が必要な人の情報を整理して、それを地域福祉コーディネーターに伝えて、地域福祉コーディネーターが全部訪問する仕組みがあると聞きました。すべての情報を住民の方にお伝えするのは難しいかもしれませんが、専門職の人から住民の方にお願ひしますという流れがあるとうち少しお手伝いがしやすくなったりするかもしれませんね。そういう仕組み等、サポートする仕組みをどう作るか、がもう少しできると良いですね。

【花村委員】

認知症をどう扱うかを、高齢者クラブのリーダーに学習する等、義務的に行って展開することも必要ではないかと思ひます。どう接するべきか、わからないし、避けてしまう。知識を得ることをアナウンスしてみたいかでしょうか。

【小松分科会長】

ありがとうございます。いろんなテーマが出てきましたが、この次に、第2次計画の重点取組ということなので、今の話も踏まえながら事務局からの説明をお願いします。

3 第2次計画の重点取組候補

4 計画策定の手法

【事務局説明】

【小松分科会長】

ありがとうございました。次の計画の重点取組候補ということでした。3点あげていただきましたが、これから作る計画ですので「こんなことができたらい」といったいろんなアイデア・ご質問をお願いします。

【板倉委員】

全世代型と書いてありましたが、私たちの世代が一番支えも必要も支えてあげる時間もない世代だと思います。私もその1人なんですけど、実際今回出席するまで福祉のことを知りませんでしたし、これからは知らないままであったと思ひます。けれど、全く知らないままでいいのか、とも思ひますし、今後関わってくる話だとも思ひます。近所に認知症の人がいることがママ友の間でも噂になっていますし、全く無関係であってはいけないと思ひます。かといって、個人に「何かやってくれ」って言われると、たぶんどきないと思ひますし、企業や学校をまきこんで、子どもだけでなく、保護者も巻き込んでいただき、情報を知るだけでも知っておきたいと思ひます。それを知らせる方法がほしいなと思ひます。

【小松分科会長】

今までの地域福祉活動だと、担い手と支えられる人だけでしたが、今後はもう少し、支えるわけではないが地域と関わりを持ちたい人の関係性をどう持つか、が大切ではないでしょうか。

【事務局】

地域との関わりあいは1つではないと思ひます。知り合う・認め合う・参加するという段階を踏んでいくとするならば、一番関わりが無かった世代に知ってもらうことも必要ではないでしょうか。

【山田委員】

地域住民が集う拠点の整備と書いてありますが、これは交流館単位になりますか。近所に区民会館があるんですけども、交流館に行くにはちょっと遠くて、車がなければとか、乗り物で行かなければならぬぐらいの距離の位置です。区民会館があって、高齢者のクラブの方たちはそこを使うんですが、建物が古いの、使い勝手も悪く、長寿会の男性の方たちが「男の理教室でもしょうか」みたいな話が出たんですが、お茶を作る場所ぐらいしかなくて、流しとかはあるので包丁とか持ち寄って作ろうかと言っている、その場所が普通の家庭の台所よりも狭いようなところでは、利用しようっていてもなかなか大変だと伺いました。なので、そういうところの整備について、そういう区民会館というのは区が主体であって、交流館になるともう少しをいろいろ福祉のことを扱う場になるんでしょうか。

【事務局】

どのような拠点が良いのか、まだ明確にできていない状況です。今年度生涯活躍部が交流館のあり方を検討していますが、その範囲でも遠いとお話でした。一方で相談窓口は支所単位で進めています。活動のありかた・必要性で規模間等のどのような拠点が良いのか、は違ってくるので、今後の皆さんとの議論の中で検討したいと思います。資源も限りがあるので、ご意見いただきながら整理したいと思います。現状では、行政は支所・中学校区・小学校区・自治区といった単位をよく使っています。

【小松分科会長】

空き家を使っているところや、住んでいる人が「うちに使っている」と言って、この場所は使える、という形もあります。皆さんが集まりやすいところで行えればと思います。

【松本委員】

私の住んでいる自治区の組の総会が先日ありまして、今までは親の世代が出席して、年に1度余ったお金で食事会をしていたんですが、私も介護の仕事をしているので、地域の高齢者のことを知っているつもりでしたが、食事会に出ると地域の人が近所のことをよく知っていることに気づきました。例えば、ゴミステーションと一緒に立っていると、言っていることが少し変わってきた、と認知症等の変化に気づけるようです。会っているだけだと気づかないことでも、ゴミ出しや食事を一緒にすると気づくことが多いようです。古い地域なので、学校のことや市のことも良く伝わってきたんですが、今は子どもが少なくなって情報が伝わるのが少なくなっています。地域のご家庭のことも、介護職として確認していたつもりであっても、全然自分が気づいていないことを感じました。やはり、お互いの情報を知るには、一緒に何かを行うことが一番大切なんだと思いました。他の地区のことは分かりませんが、区単位だと広すぎて分からないような気がします。やはり組での活動が一番良いことではないでしょうか。

【小松分科会長】

ありがとうございます。良いご意見をたくさんいただいて、既に2次計画ができつつあるような気がします。そろそろお時間になってきましたが今日お伝えしたいということがございましたらお願いします。ないようでしたら、計画策定のスケジュールについてご説明をお願いします。

5 スケジュール

【事務局説明】

【小松分科会長】

ありがとうございます。今後についてご説明がありましたが、何かございますか。

【柿島委員】

福祉総務課から、地域福祉活動推進委員会への議の位置づけに関する依頼を受けましたので情報提供します。

【花村委員】

高齢者クラブに2万人超のクラブ員がありますが、末端まで情報が伝わっていない状況です。区長がどの程度理解して区内に伝えているか、が課題だと思います。末端まで伝わるよう、働きかけが次のテーマにもなるのではないのでしょうか。市からの情報を展開するのは区長ですが、嫌々で区長をやっている人もいます。地域のリーダーの決め方にも検討が必要ではないでしょうか。

【小松分科会長】

ありがとうございました。様々なご意見を頂きました。今後、こうした形で計画策定を進めていきたいと思いますので皆様ご協力をお願いします。以上で事項が終了しましたので事務局にお返しします。


【事務局】

ありがとうございました。それでは、次回平成30年度の第1回の分科会につきましては、先ほども少し説明しましたが、平成30年7月頃に開催予定となっております。また日程等については改めてご連絡のほう調整させていただきたいと思いますのでよろしくお願ひ致します。

時間の都合もございましたので、今回の内容について何か他にご意見ある方いらっしゃいましたら、意見書にご記入いただきまして、FAXまたは郵送にて3月29日までに御提出いただけたらと思います。

それでは、以上をもちまして、平成29年度第2回豊田市社会福祉審議会地域福祉専門分科会を閉会いたします。皆様どうもありがとうございました。

平成 30 年 8 月 2 日

議事録署名人 小田 美津子 

議事録署名人 山村 史子 

7